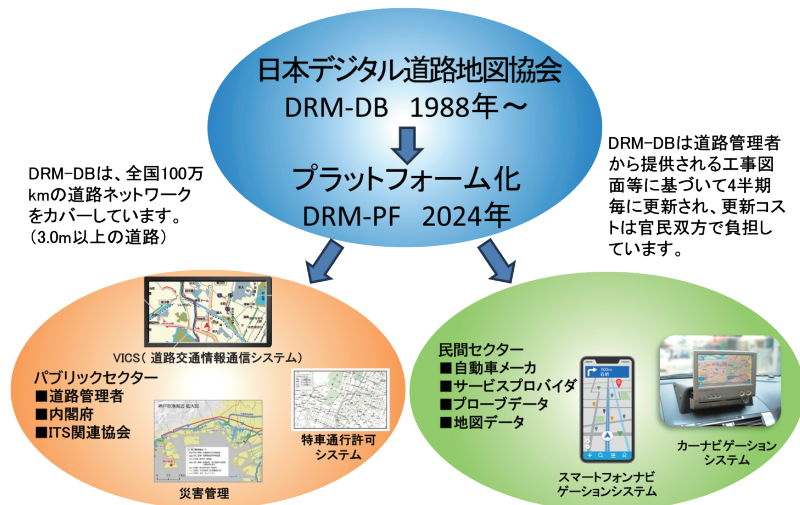


デジタル道路地図 (DRM-PF) による道路DXのサポート

DRM-DB は道路に関する事実上のベースレジストリです

1988年以来、日本デジタル道路地図協会 (DRM) は、デジタル道路地図データベース (DRM-DB) を整備、更新、提供してきました。

DRM-DBは、当初はナビゲーション用途に整備されましたが、現在では日本のICT社会基盤を支える事実上のベースレジストリとして、道路の維持管理やアカデミックな研究用途にも利用されています。

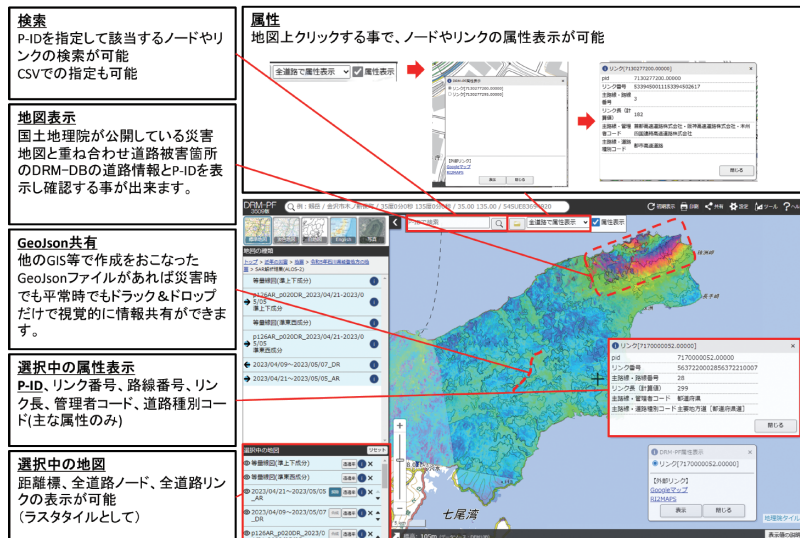


DRM-PF : ベースレジストリを利用するためのプラットフォーム

DRM-PFは、クラウド上のリレーショナルデータベースに格納したDRM-DBをコアとし、交差点や道路区間に時間変化に強い新しいID (P-ID) を付加したものです。

交差点の近くの地物、道路に面した地物は、このP-IDを手がかりとして、道路に紐付けることができます。

また、DRM-DBとP-IDを効率よく利用するためのWeb-APIを多数開発するとともに、多くの人々が既に親しんでいる地理院地図に合わせたユーザインターフェースを採用したビューワーも用意しており、未経験者から開発者まで広くお使いいただけます。

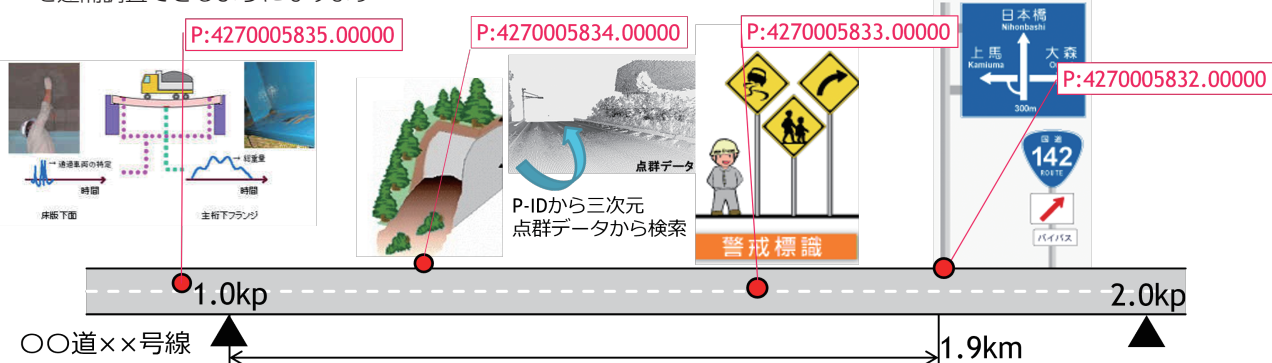


P-ID (パーマメントID) 利用例

従来の道路施設の管理は距離標にて管理していました。これに加えてP-IDを利用する事で、様々な道路施設と連携する事が容易になります。

P-ID (パーマメントID) と線形位置参照機能があれば、以下のようなことが自動処理可能になります。

- ① 特車の通行許可経路をパーマメントIDを順に列挙することで示すことができます
- ② 特車の通行経路上にある橋梁をパーマメントIDと紐付けて検索し、耐荷重等を確認できるようになります
- ③ 案内標識や規制標識の位置を、パーマメントIDと最寄交差点からの距離で正確に示すことができるようになります
- ④ 急傾斜面に沿った道路区間のパーマメントIDから、対応する3次元点群データを取得できるようになり、斜面崩落の危険度を遠隔調査できるようになります



DRM-PFを利用して災害情報作成イメージ

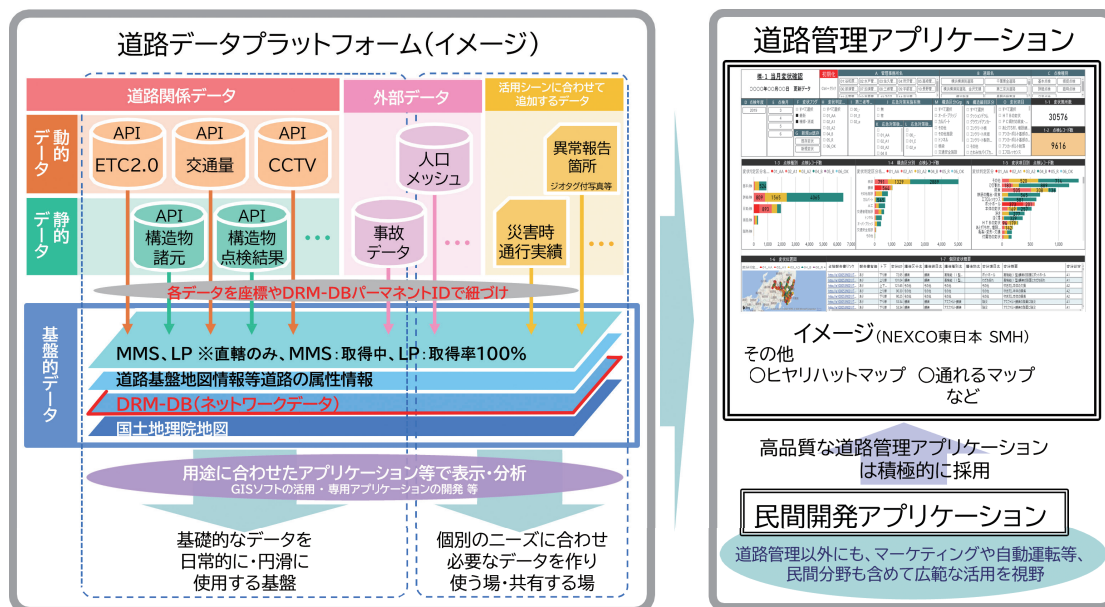
APIメニューの「最寄りのリンク取得」を使えば、緊急保全を要する法面に沿った道路の位置や管理者等の情報を、地図上で指示することで、計算機処理に適した形式で出力できます。

※DRM-PFのAPI機能①～⑥を順にクリック
出力データは GeoJSON形式を採用していますので、メールに添付しての他機関との情報共有や、GISヘドラッグアンドドロップしての情報表示などが極めて簡単に実行できます。



DRM-PFとxROAD(道路管理DX)の活用イメージ

- 道路に関する基礎的なデータを集約し円滑に活用可能になるとともに、各道路管理者等のニーズに合わせて様々なデータを作成・活用できるようにするツールとして、道路データプラットフォームを構築
- データ利活用による道路の調査・整備・維持管理・防災等の効率化・高度化を推進
- 各道路施設データを座標やDRM-DBのP-ID(パーマネント)と紐づけることで、容易に比較・照合が可能



出展元: 国土交通省道路局

DRM-PF(プラットフォーム)申請について

- ▶道路管理者(国・都道府県・市区町村)については随時受付中です。
- ▶民間企業に関しては今年度受付開始を予定しています。

※ここで紹介した機能の一部は、利用に際して料金がかかる場合が御座います。

※道路管理者は、全ての機能を実費でご利用頂けます。

下記「DRM-PFポータルサイト」のページ最下部にある「利用申請」から申請いただければ、課あるいは室の単位でID/PWを発行いたします。

■ 問合せ先:
一般財団法人 日本デジタル道路地図協会
〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-3-13

▶DRM-PFポータルサイト
URL: <https://pf.drm.jp/>



- ▶DRM-PF申込
https://drm-dx2.jp/billing_apply/apply_mail_input
- ▶よくある質問
https://drm-dx2.jp/faq_apply/faq
- ▶DRM-PF問合せ窓口
https://drm-dx2.jp/faq_apply/apply_mail_input

